

令和3年10月4日

芦屋市企画部市民参画課
課長 川口 弥良 様

芦屋市立あしや市民活動センター
(指定管理者:(特活)あしやNPOセンター)
事務局長 橋野 浩美

あしや部「平和学習・ミャンマーの貧困問題から平和を考える」報告

- 1 日時: 10月3日(日) 15時30分~17時30分
- 2 会場: リードあしや オープンスペース1、オンライン (Zoom)
- 3 担当者: 橋野 浩美
- 4 参加者: 20人 (高校生4人 語り部1人 大人4人 コープこうべ11人)
- 5 内容: ミャンマーで活動している川北奈生子さんの話を伺う
 - ・フェアトレード、ソーシャルビジネス、貧困問題、経済的自立、SDGsをキーワードにこれまでと現在の状況を伺った。
 - ・川北さんの話をもとに、コープこうべの皆さんと交流した。
- 6 高校生からの質問
 - ・理解し合えるためには共通言葉が必要ではないか。
→ミャンマーは多くの民族で構成されており、民族ごとに言語が異なる。理解し合えないのは言語の問題ではないように思える。言語ができないから活動できないという理由を作らず、まずは動いてみることを、多様な人がいることを現場で知ってもらいたい。
 - ・学校から文房具などの支援を行っているが、現地では必要とされているか。
→外国への支援の場合、郵送費などの中間コストや、現地の産業を考えると、日本の物資を送るより、現地の産業を支援し経済が回るような仕組みを考えるなど視線を変えることも必要。
- 7 所感
 - ・川北さんのフェアな精神「なんでもフェアに言い合える、違うことは違う、いいことは受け入れる、悪意なき思い通じる」は、高校生に響いたようであった。
 - ・「その日暮らし」的なものの改革に果敢に取り組みながらも、コロナ禍という災害と、紛争状況の中、前に進めない苦しみが伝わり、話を伺っているだけでなく、現在の自分たちの状況も考えるきっかけにもなった。

以上

